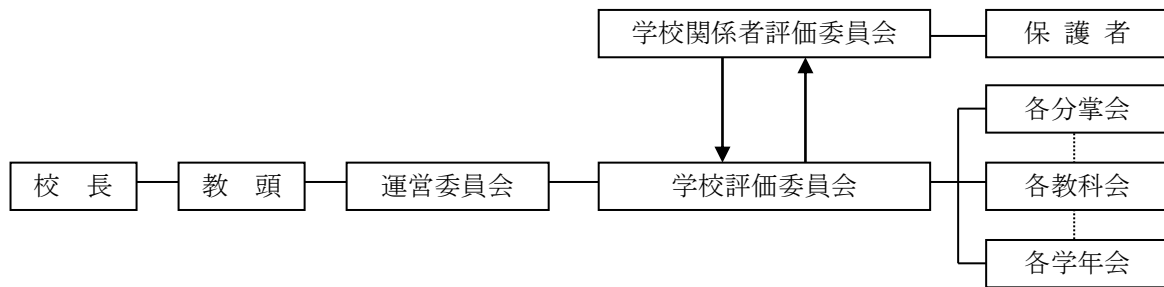


学校評価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

4月 PLAN (計画)	課題・重点目標の設定 ・ 分掌別取組課題の検討 ・ 具体的方策 ・ 留意事項 情報受発信の検討	学校評価委員会で検討 運営委員会・職員会議で報告 PTA 総会で概要説明 学校ホームページに「重点目標」掲載 学校評議員への提示 地域の中学校への訪問・説明
通年 DO (実践) 9月 CHECK (評価)	中間評価の実施 ・ 取組状況の確認 ・ 改善点の検討 中間評価のまとめ ・ 評価結果と課題	学校評価委員会でまとめ 運営委員会・職員会議で報告 PTA 委員への概要説明 学校ホームページに「中間評価」掲載
3月 ACTION (改善)	年度末評価の実施 ・ 評価結果と課題 ・ 教育内容・活動の改善 次年度の重点目標の検討	学校評価委員会でまとめ 学校関係者評価委員会の開催 運営委員会・職員会議で報告 PTA 委員への概要説明 学校ホームページに「年度末評価」掲載

(3) 本年度の学校評価

本年度の重点目標	心身ともに健康で「やり抜く力」をそなえた生徒の育成 ～「夢に向かって全員が主人公、希望がかなう津島北高校」の具現化 ・ スクールポリシーの具現化 ・ 生徒の生活習慣、学習習慣の確立 ・ さまざまな支援を必要とする生徒の実態に合わせた適応指導 ・ 新学習指導要領への対応、カリキュラム・マネジメント ・ 生徒の希望する進路実現に向けた進路指導の充実 ・ 様々な学校行事における、生徒主体の計画と活動の実践 ・ 商業科・普通科の併置校のメリットを生かした学校教育の実践 ・ 教職員の多忙化解消		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務	P T A 活動への積極的な参加促進 内容の充実と積極的な更新	・ 役員、常任委員との連携を密にする。 ・ 「壁新聞」、「学校案内」で魅力を発信。	・ 役員会、常任委員会での意見や報告を共有できるよう連携する。 ・ 定期的に発信できるよう情報収集をしっかりと行う。
教務	統合に向けた教務システムの構築	・ 教員間で密に協議をし、教務内規の検討を行う。 ・ スクールエンジンの検証を行い、次年度への準備を行う。	・ 相手校とも連携を図り、できるだけ早く全体での検証を行う。 ・ システムの試行を行い、全職員に共通認識を持っていただく。

図書文化	図書行事の活性化と深化	・ブックトークや読書会の工夫・改変、一般生徒の参加促進。	・本はもちろん、新聞記事を使ったN I Eを行い社会問題意識を育成する。
生徒指導	・いじめ防止及び未然防止 ・学校統合に向けた、校則の見直し	・生徒との面接やいじめアンケートの実施、生徒相談箱の設置などを通して、いじめの早期発見に努め、適切に対応する。また、学年会、学年主任会、教育相談委員会等と連携し、情報の共有化を図る。 ・海翔高校の校則も含めて、時代に対応しているのかを学校全体で考察する機会を設ける。	いじめの認知数による評価。 いじめに係る情報（いじめが疑われる情報や人間関係に関する悩み）があった場合は情報の迅速な共有を図る。 ・両校の伝統及び特色を考慮し、改善できる項目については変更していく。
進路指導	新校を意識した進路指導業務・行事の見直しと再構築	・進学補習の実施時間、実施頻度等を大幅に見直した上で実行する。 ・次年度に向けて既存の行事や取り組みについて見直す機会を設ける。	・補習業務の見直しを行う際には、生徒の進路実現にマイナスの影響が出ないか十分に考慮する。 ・進路部会等で多くの意見に耳を傾けながら、次年度以降の業務、行事について検討する。
保健厚生	生徒保健委員会活動の充実	文化祭でのAED体験コーナーや生徒保健委員会の健康に関する展示発表の企画・運営を通じて、自ら考え主体的に行動できる生徒の育成を図る。	・例年、夏休み前から動き始めているが4月には役割を決め、日ごろからの委員会活動を充実させ、文化祭に向けた準備に余裕を持たせる。 ・文化祭参加者に簡単なアンケートを実施するとともに、文化祭終了後に保健委員に向けたアンケートを実施し、今年度の反省や来年度に向けた目標を立てさせる。
生徒会	年間を通じて生徒の主体的行事運営の充実を図る	・評議員会を充実させる。 ・各種行事において、生徒が必ずやるべきことがあるようにする。 ・役割を具体的かつ明確にする。 ・生徒会役員が代表として各行事の説明を行う。	・生徒会からクラスの伝達事項を正確に伝えさせる。 ・評議員がクラスに正確に伝えられるように工夫をする。 ・各種行事において準備等に各クラスを主体的、積極的に参加させる。
第1学年	挨拶及び基本的生活習慣の確立・豊かな心の育成 家庭学習習慣の確立 キャリア教育の推進	・教員が率先垂範し、挨拶を励行させる。集会・HR・面談などを通して、授業や部活動に主体的に取り組むように働きかける。行事や授業において他人を思いやる心を形成できるよう働きかける。 ・継続的な家庭学習の重要性を伝え、定着するよう働きかける。 ・自分の興味・関心や価値観、意思決定スタイルなどを客観的に分析し、将来の職業像をイメージさせることによって、進路目標の設定に繋げる。	・挨拶を含めたマナーの大切さをしっかりと伝える。あらゆる場面で良い生活習慣が学習や部活動の成果につながることを理解させる。教師間の連絡を密にし、生徒の新たな挑戦と活躍できる場を確保するよう努める。いじめや偏見の無いよう、道徳教育を促す。 ・スケジュール帳を利用して学習・生活時間等の記録を継続し、面談等に活かす。 ・進路講演会や総合的な学習の時間・HR等により、自己の興味・関心や価値観を理解させ、進路目標の設定に繋げる。

第2学年	進路希望を明確にし、検定や模試に対する意識を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部・教科とも連携し、進路検討会を充実させ、学年団の意識を共有し、的確な進路アドバイスをする。 ・担任だけでなく、教科担任などの様々な立場から検定や模試に対する姿勢の話を継続的に行い、資格取得や模試に対して積極的な姿勢を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換や意見交換を密に行い、学年団としての方向付けをしっかりと行う。また、進路に対して積極的に調べさせ、進路希望を明確にさせる。 ・職業観や進学に対する意識を高めるために、学年会や授業など様々なところで検定や模試の話をし、意識を高める。
第3学年	個々の適性及び希望に対応した進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導と学年・教科・担任の連携を図り、学習環境を整える。 ・希望進路実現までの段階的目標を設定させる。 ・学習記録を活用した家庭学習の充実を図る。 ・担任や進路担当者と生徒の個別相談を充実させる。 ・適切な進路情報の提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任会での情報交換、補習や学習会の充実を図る。 ・第一志望へのこだわりを学習意欲に繋げるよう指導する。 ・学習記録の内容について適宜助言し、目標到達に必要な改善を促す。 ・定期的な面談を通して生徒の意識の高揚を図る。 ・ホームルームを活用し、就職・進学に関する情報を提供するとともに、企業や進学先の研究をおこなう機会をもうける。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組	全職員への周知及び、適切な運用。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校いじめ防止基本方針の周知を徹底するとともに、各職員が実際に方針に沿った行動をとることができているかを点検する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部を中心として、各学年との連携を密にして、いじめ防止基本方針に沿った取組を実施する。
勤務時間の適正な管理及び健康障害防止	教職員の年次休暇の計画的な使用 業務改善の推進と実行	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の適正化を図り、積極的な年次休暇の取得を促し、メンタルヘルスの保持に努める。 ・在校時間を客観的に把握し、時間外在校時間の上限が遵守できるよう、業務改善、分担の見直し等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の教員に業務が集中している状況を改善し、チームでの業務遂行を図る。 ・タイムマネジメントに関する意識の醸成、啓発活動を継続し、積極的な年次休暇取得を促す。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<p>心身ともに健康で「やり抜く力」をそなえた生徒の育成 ～「夢に向かって全員が主人公、希望がかなう津島北高校」の具現化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校行事やPTA活動への保護者の積極的な参加 2 授業改善の進捗とカリキュラム・マネジメントの整備状況 3 いじめ未然防止の取組とその成果 4 進路指導体制の確立とその成果 5 校内美化活動の推進とその成果 6 各学校行事への積極的な取組とその成果 7 キャリア教育の推進とその成果 8 新しい商業教育の実践と地域貢献の状況 9 教職員の勤務時間の適正管理と健康障害防止 10 スクールポリシーの具現化 	

(4) 前年度の学校評価結果と課題

ア 自己評価結果等

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>心身ともに健康で「やり抜く力」をそなえた生徒の育成 ～「夢に向かって全員が主人公、希望がかなう津島北高校」の具現化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールポリシーの具現化 ・生徒の生活習慣、学習習慣の確立 ・さまざまな支援を必要とする生徒の実態に合わせた適応指導 ・新学習指導要領への対応、カリキュラム・マネジメント ・生徒の希望する進路実現に向けた進路指導の充実 ・様々な学校行事における、生徒主体の計画と活動の実践 ・総合ビジネス科・普通科の併置校のメリットを生かした学校教育の実践 ・教職員の多忙化解消 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>総務</p>	<p>P T A 活動への積極的な参加促進。 内容の充実と積極的な更新。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役員、常任委員との連携を密にする。 ・HPの更新頻度を高め、「壁新聞」、「学校案内」を発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事の情報を幅広く流し、役員、常任委員のみに偏らない参加ができた。今後も多くのP T A活動への参加ができるよう役員会等で検討していきたい。 ・生徒の魅力やアピール点を「学校案内」や「壁新聞」によって発信することができた。今後も、HP更新を多くするため、内容について再検討していく。
<p>教務</p>	<p>新課程の評価方法の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法の例を提示し、負担感の少ない評価方法を確立する。 	<p>教員研修を行うなど、個々の教員の新評価に対する意識を高めることができた。一方で一部の教員の評価方法で生徒からの不満が続いてしまった。</p>
<p>図書文化</p>	<p>文化行事の質的向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークの継続と平和教育、人権教育への取り組み 	<p>取り組みは行ったが、より主体的な参加者意識をつけさせるのが課題。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>いじめ防止及び未然防止</p> <p>時代に対応した生徒指導の在り方の考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面接やいじめアンケートの実施、生徒相談箱の設置などを通して、いじめの早期発見に努め、適切に対応する。また、学年会、学年主任会、教育相談委員会等と連携し、情報の共有化を図る。 ・本校の校則の現状について時代に対応しているのかを学校全体で考察する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を活用して担任学年生徒指導部と連携し早期解決に努めた。教育相談委員会と連携し生徒の状況把握ができた。 ・年間2回の私服登校期間を設けた。結果、生徒の教育活動に大きな影響がでることはなく、生徒が主体的に考え、行動する生徒指導が実践できた。来年度以降も引き続き時代に対応した生徒指導の在り方を考察したい。
<p>進路指導</p>	<p>進路指導資料活用の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の分析について外部の協力を得て、生徒の進路実現に資する資料を作成し、活用する。 ・大学入試に向けた基礎学力を含む学力分析を各学年の進路指導部員で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会においては、一定以上の教員に参加してもらうことができ、貴重な情報交換の場ともなった。 ・生徒の模試への意識が著しく低く、分析に資するデータがほぼないということが度々あった。進学するには、学力を伸ばさせるために、模試等で実力を測ることが大切であると意識させることが課題である。

保健厚生	校内美化活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の校内美化週間を通じて、校内美化の意識の向上と日々の清掃活動の効率化および充実を図る。 	<p>昨年度の途中から水曜日の清掃を廃止したこと、生徒数の減少による十分な清掃を行うことができないことが懸念されている中で、おおむね良好な清掃状況である。一方で、トイレなどの一部の清掃区域では不十分さも感じた。</p> <p>来年度に向けて今一度、清掃区域と分担の割り振りや行い方を検討していきたい。</p>
生徒会	年間を通じて生徒の主体的行事運営の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会を充実させる。 ・各種行事における生徒の役割を活性化させる。 ・生徒会役員が代表として各行事の説明を行う。 	<p>評議員会を出来るだけ開き、生徒が主体的に動く場を作ることができた。しかし、クラスの伝達が不十分であることが多く滞ることが多々あった。仕事を全うする責任感を育成することが今後の課題と言える。</p>
第1学年	<p>挨拶及び基本的な生活習慣の確立・豊かな心の育成</p> <p>家庭学習習慣の確立</p> <p>キャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が率先垂範し、挨拶を励行させる。集会・HR・面談などを通して、授業や部活動に主体的に取り組むように働きかける。行事や授業において他人を思いやる心を形成できるよう働きかける。 ・継続的な家庭学習の重要性を伝え、定着するよう働きかける。 ・自分の興味・関心や価値観、意思決定スタイルなどを客観的に分析し、将来の職業像をイメージさせることによって、進路目標の設定に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒が自主的に挨拶できるようになった。まじめな生徒が多く、授業や部活動に主体的に取り組み、基本的な生活習慣が確立されている。しかし、一部の生徒の遅刻や欠席が目立つため、個々に応じた指導を行っていきたい。 ・学習時間は増えてきているが、まだ不足している。学習意義を伝え、主体的に取り組めるよう指導したい。 ・検討会や学年会を通じて、2年後を見据えた指導法を学年団で共有することで、生徒全体の進路に対する意識が高まった。より具体的な進路が描けるよう指導していきたい。
第2学年	進路希望を明確にし、検定や模試に対する意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部・教科とも連携し、進路検討会を充実させ、学年団の意識を共有し、的確な進路アドバイスをする。 ・担任だけでなく、教科担任などの様々な立場から検定や模試に対する姿勢の話を継続的に行い、資格取得や模試に対して積極的な姿勢を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会や学年会を通じて、2年後を見据えた指導法を学年団で共有することで、生徒全体の進路に対する意識が高まった。より具体的な進路が描けるよう指導していきたい。
第3学年	個々の適性及び希望に対応した進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と学年・教科・担任の連携を図る。 ・担任や進路担当者と生徒の個別相談を充実させ、希望進路実現までの段階的目標の設定を図る。 ・適切な進路情報の提供をおこなう。 ・学習記録を活用した家庭学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人に応じた進路に合わせ、積極的に声掛けをおこない、本人の希望を汲み取りながら必要な情報を提供することができた。 ・第一希望の進路実現をするためにも、日頃からの声掛けを意識的・継続的にしていく必要がある。 ・就職指導は商業科と連携を密にし、より早い段階で準備をしていく必要がある。

学校いじめ防止基本方針に基づく取組	全職員への周知及び、適切な運用。	・学校いじめ防止基本方針の周知を徹底するとともに、各職員が実際に方針に沿った行動をとることができているかを点検する。	・いじめに関する問題を、生徒指導部や教育相談委員会が中心となって、組織として対応することができた。
勤務時間の適正な管理及び健康障害防止	業務改善の推進と実行 教職員の年次休暇の計画的な使用	・在校時間を客観的に把握し、時間外在校時間の上限が遵守できるよう、業務改善、分担の見直し等を行う。 ・業務の適正化を図り、積極的な年次休暇の取得を促し、メンタルヘルスの保持に努める。	・年休や割振り変更等、取得しやすい職場の雰囲気づくりを心掛けた結果、時間外在校時間の減少につながった。 ・特定の教員に業務が集中している状況が否めない。チームでの業務遂行を図りたい。
総合評価	重点目標の達成を目指して教職員が連携し、意欲的に取り組んだ。生徒がそれぞれの活動を主体的に行動できるよう努めた。教職員の働きかけが生徒の活動に示唆を与え、着実に成果が上がっている。いじめの未然防止や、学習指導、進路指導については継続的な取組が必要であり、今後も粘り強く地道な、生徒個々の状況にあった指導を心掛けていきたい。		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施する主な評価項目	心身ともに健康で「やり抜く力」をそなえた生徒の育成 ～「夢に向かって全員が主人公、希望がかなう津島北高校」の具現化 1 学校行事やP T A活動への保護者の積極的な参加 2 授業改善の進捗とカリキュラム・マネジメントの整備状況 3 いじめ未然防止の取組とその成果 4 進路指導体制の確立とその成果 5 校内美化活動の推進とその成果 6 各学校行事への積極的な取組とその成果 7 キャリア教育の推進とその成果 8 新しい商業教育の実践と地域貢献の状況 9 教職員の勤務時間の適正管理と健康障害防止 10 スクールポリシーの具現化
自己評価結果について	・キャリア教育において、地域との連携がなされている点が評価でき、ボランティア活動も含めてより積極的に地域とのかかわりを深めてもらいたい。 ・学校祭（文化祭・体育祭）にP T Aとして参加することができた。今後も参加しやすい状況を続けてほしい。
今後の改善方策について	・SNS を活用し、新校の魅力を発信できるとよい。中学生に向けて生徒が関わる、または、生徒の活動がわかる内容があると良い。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	・新校の開校に向け、校則や制服等の見直しについて、現代の価値観を反映した上で時代に即したものにしてほしい。 ・中学校で不登校であった生徒が津島北高で頑張っている様子がみられ、うれしく思う。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	構成…5名(学校評議員4名及びP T A副会長1名) 評価時期…2月下旬

(5) 経営管理上の問題点等

- ア 学習指導、進路指導、生徒指導の諸課題に対して一層の充実を図る。
- イ 家庭と地域、地元企業や中学校と連携し、信頼される学校づくりを推進する。
- ウ 学校再編に向けて、学校組織の活性化を図る。
- エ 教育活動の情報発信に努める。
- オ 学校評議員制度、学校関係者評価を学校運営に活用する。